



薬剤部 業務紹介

調剤室

調剤・監査は薬剤師の最も重要な仕事の一つです。当院では、薬剤師はチェックシートやカルテを確認しながら処方監査を重点的に行います。薬剤助手やピッキングマシンが医薬品の取り揃えを行い、別の薬剤師が最終監査をするという流れで、調剤を行っています。



外来棟地下1Fお薬渡し口



最新機器による調剤支援

抗がん剤調製室

薬剤師は、カルテで検査値、投与スケジュール、副作用予防薬等を詳細に確認して、処方監査を行っています。投与当日の検査値もチェックして、投与が決定したら調製を行います。

モニター、バーコード、天秤のついた監査システムで、医薬品の照合、採取量の確認・記録等を行いながら、1人で調製作業を行います。別に薬剤師が最終チェックを行い、患者さんに投与されます。



機械化された調製システム



詳細な処方監査



薬剤師による最終監査

病棟薬剤業務

当院では、全ての病棟に少なくとも1人の薬剤師を配置しています。入院患者さんの持参薬をチェックしてオーダー仮登録までを行い、処方提案します。また、入院中に開始する医薬品の説明。退院時の服薬指導を行います。カンファレンスや回診への参加、医薬品の情報提供、看護師と協力して行う病棟常備薬や麻薬の管理も病棟薬剤師の重要な仕事です。



回診への参加



病棟薬剤師による服薬指導

チーム医療への参画

院内には様々な職種から成る医療チームがあります。多くのチームに薬剤師も参加して活躍しています。認定・専門薬剤師を目指している薬剤師も多くいます。

- ・ 緩和ケアチーム
- ・ 抗菌薬適正使用支援チーム (AST)
- ・ 栄養サポートチーム (NST)
- ・ 医療安全チーム

- ・ その他チーム
褥瘡・HIV・RI・糖尿病・腎臓病
心臓リハビリ・がんホルモン
精神科リエゾンなど



緩和ケアチーム



糖尿病教室



心臓病教室



医療スタッフとのカンファレンス

その他の部署

医薬品情報室

最新の医薬品情報、副作用情報の収集、周知を行います。言わば、院内の医薬品適正使用のブレインとして働きます。薬の採用・削除の情報収集や、医薬品のマスターの管理も担っています。



DI NEWS No. 127
2018.7.31 発行
医薬品情報室
内線 3353

投与時の静脈炎に注意が必要な薬剤

注射薬の中には、浸透圧やpH等の影響により静脈炎を起こしやすいものがあります。そのような薬剤を末梢静脈から投与する場合、希釈濃度、投与速度や血管外漏出等に注意が必要です。

- 高浸透圧
末梢静脈から投与する場合、浸透圧比は約3（生理食塩液に対する比）未満が推奨されます。
- pH（強アルカリ性、強酸性）
正常な血液のpHは約7.4です。薬剤のpHとの差が大きいほど血管への刺激が強くなり、静脈炎を起こしやすくなります。
- 薬剤の細胞障害性
 - ① 脂肪乳剤
 - ② 血管収縮薬：虚血により細胞に酸素欠乏状態が生じ、皮膚障害が起こる可能性があります。
 - ③ 電解質補正液：細胞膜の働きを障害し、皮膚障害が起こる可能性があります。

製剤室

市販されていない医薬品を院内製剤として調製しています。大学病院として、特殊な患者の治療に貢献しています。臨床試験のための試験薬製造も行います。



TDM室

医薬品の体内動態には個人差が存在します。そのため、薬物によっては、画一的な処方ではなく、患者さん個々の薬物動態的特徴に合わせた調節が必要になります。当院薬剤部では、TDMの対象となる薬物について血中濃度の測定を行なっています。また、医師や病棟担当の薬剤師と連携して、薬物血中濃度に基づく投与設計と処方提案を行い、薬物治療の個別化に貢献しています。



若手職員紹介

●薬 京子さん

●入職1年目・調剤室所属

●主な仕事内容

午前中は病棟にて、入院された患者さんとの初回面談を通して持参薬や服薬状況の確認、入院患者さんに対する継続的な薬剤管理指導、退院される患者さんに対して退院指導を行っています。

また、他の医療スタッフと患者さんの情報を共有し、適切な薬物治療が行われているかも確認しています。

午後は調剤室にて入院・外来処方調剤や外来患者さんへの服薬指導、各病棟の医薬品の管理、他の医療スタッフへの医薬品に関する情報提供なども行っています。



薬 京子さんのある1日

- 8:30 ● メール確認、カンファレンス
- 9:00 ● 病棟業務(初回面談・服薬指導)
- 12:30 ● 調剤業務・抗がん剤調製
- 15:30 ● オペ室にて医薬品管理
- 17:15 ● 退勤
- 19:30 ● 家事、明日の仕事の準備
- 22:00 ● 休憩、就寝

仕事をするうえで大切にしていること

自分が調剤する医薬品の先には患者さんがいることを意識し、適切な薬物治療が行われているかを評価するとともに、患者さんの手元へ早く届けられるよう迅速に業務を行うことを大切にしています。1人の医療人として情熱と責任感を持ち、他職種と連携しながら安全で質の高い医療を届けることを意識しています。また、医療を牽引する施設の一員として、症例研究やカルテ調査を中心とした臨床研究やアカデミアと連携した基礎研究、医薬品適正使用のための情報の収集・提供等、今と未来の医療に貢献するために日々精進するよう心がけています。

メッセージ

2年間のレジデント教育プログラムによって薬剤師の基本的なスキルを習得するのに適した環境であるとともに、最先端の医療にも関わることが本院の魅力であると思います。また、患者さんにより良い医療を提供するために、向上心を持って日々業務、勉強、研究に励む先輩薬剤師に刺激を受けることができ、希望次第で、調剤業務・病棟業務、医薬品情報、治験管理、研究活動まで幅広い分野を経験することができます。分からないことや困ったことがあれば、誰にでも相談できる温かい職場です。皆さんと共に働くことを楽しみにしています。